

SHIRO PAPER



Issue

0

January 2023

A2 GAGOME KOMBU

素材の生産者を訪ねる旅
がごめ昆布の生産地
北海道函館市を訪ねました

A4 BACK TO BASICS

ブランド創設者の今井浩恵が
SHIROの歴史を振り返ります
そして次の目的地は

B2 PROJECTS

まちづくり・森づくりなど
あらたなプロジェクトに取り組む
SHIROの根底にある想い



はじめての日本素材 スキンケアの定番

海に、畑に、森に合わせたものづくり。

SHIROの製品の背景には、

信頼できる生産者の方々がいます。

全国各地の生産者を訪ねる旅

第1回は、がごめ昆布の産地、北海道函館市を訪問。

思いがけず、新たなアイデアが浮かびました。

Photographs & Text: Shin Sasaki (A3)

KOMBU SKIN SERUM

Our bestselling skin serum. Formulated with gagome kombu, an ingredient found exclusively off the coast of Hakodate, Hokkaido, in Japan. By soaking gagome kombu in water, its thick and rich compounds are extracted to create a concentrated serum. The kombu's high water-retaining properties protects the skin against dehydration to keep skin firm and supple.

Size: 60mL

How To Use

Shake well before each use as the natural kombu ingredients may partially separate over time. Once shaken, apply 2 pumps of serum onto clean skin. Gently massage onto face and any dry skin areas.

Key Ingredients

Gagome Kombu: Rich with nutrients deep from the sea, our gagome kombu is sourced from Hakodate, Hokkaido. It contains especially high amounts of gelatinous compounds full of fucoidan and alginic acid, which helps skin retain its moisture.

Ingredients

AQUA, BUTYLENE GLYCOL, KJELLMANIELLA CRASSIFOLIA EXTRACT, 1, 2-HEXANEDIOL, METHYL PARABEN.



生産者を訪ねて冬の函館へ

SHIRO PAPERでは、素材や生産者など、製品の背景をお伝えしていきます。創刊準備号となる今号で紹介する製品について考えたとき、真っ先に候補として挙げたのががごめ昆布シリーズでした。SHIROが日本の素材を使って最初に開発した製品であり、SHIROのもののづくりの原点といえる代表的なスキンケアシリーズです。

今号の表紙は、独特な凹凸が特徴的ながごめ昆布の葉を、真正面から写したものです。この凹凸が「カゴの目」のように見えることから、「がごめ昆布」と呼ばれるようになったと言われています。がごめ昆布を使用したスキンケアの特長は、なんといってもその強いとろみ。すぐれた保水力で、肌を乾燥から守り、ふっくらとハリのある肌へ導きます。このとろみを生み出しているのが、主に北海道渡島半島南東部の海域に生育しているがごめ昆布です。

養殖がごめ昆布の植え付けの時期を控える11月末、久しぶりに函館を訪れ、漁師の岩田和晴さん（函館市漁業協同組合・根崎支所の支所長）と、がごめ昆布研究の第一人者・安井肇さん（北海道立工業技術センター長）にお話を伺いました。

製品開発のはじまり

がごめ昆布の葉は、幅が20～50cm、長さは15～3mくらい。日光が当たりづらい少し深い海に生息しています。葉から出るとも強いとろみを生んでいるのがフコイダンという粘性多糖類。当時北海道大学の助教授だった安井肇さんの研究がきっかけとなり注目を集めました。一般的に流通している真昆布の影に隠れ、長い間脇役だったがごめ昆布ですが、フコイダンが健康や美容に効果があることがわかり、産学官での研究開発がスタートしたのです。SHIRO（当時LAUREL）も2010年に研究開発に参加。主に流通している葉だけではなく、根の部分なども含め試作を重ねました。バスパック、化粧水、石けんをつくり、次いで開発されたのが、がごめ昆布美容液でした。がごめ昆布シリーズの中で最も濃厚に昆布エキスを配合されています。

かつて良い素材を探して世界各地を旅していた私たちにとって、がごめ昆布は驚くほど身近な発見でした。試行錯誤を重ね完成した製品の品質には自信がありましたが、はたして昆布を使用したスキンケアアイテムが受け入れられるかは少し不安でした。あれから10年以上が経った今、がごめ昆布のスキンケアシリーズはSHIROを代表する製品になりました。

当時、漁師から直接原料を買い付けるやり方は、怪訝な目で見られたことを思い出します。でも今では珍しいことではありません。同じように北海道砂川市で建設中の新工場の外壁材や一棟貸し宿MAISON SHIROで使う丸太を木こりから直接購入していること、これも今はまだ奇妙に見えるかもしれませんが、きっと10年後にはスタンダードになっていると信じています。

浜に打ち上げられたがごめ昆布の表面には、独特のとろみが。



生産者がいるから、製品がある

現在SHIROでは、岩田さんを中心に7名の漁師からがごめ昆布を仕入れています。収穫された昆布は、水洗いされ、日干しされた状態で砂川工場に納品されます。水洗いするのは、痒みの原因になる塩分や不純物を取り除くため。どうやらその作業を負担に感じている漁師の方々がいらっしやることがわかりました。食用であれば必要な水洗いの工程は、時間と労力に加え、水道費もかかるということです。

がごめ昆布シリーズの中でも人気を誇る「がごめ昆布美容液」は、研究者や漁師の方々と協力して、海の雑草と呼ばれることもあったがごめ昆布から誕生しました。生産量の増加に伴い、原料の仕入れも増えている中、「なぜ水洗いが必要なのか?」「どのような工程で製造されているのか?」など、漁師の皆さんに十分な説明ができていないことに気づき、あらためて説明させていただく機会をつくることをお約束しました。

毎日がごめ昆布美容液をお使いになっても、漁師の暮らしを想像するのは難しいでしょう。同様に、漁師の皆さんにとっては、美容液を使う皆さんの日々を想像するのは難しいに違いありません。間に入っている私たちが丁寧に説明していく必要があると感じました。そして、皆さんが漁師の暮らしや仕事に少しでも関心を持っていただけると嬉しいです。



漁師の岩田和晴さん

自然に合わせたものづくり

がごめ昆布のスキンケア製品は、食用には適さず捨てられる根の部分を活用することを目指して開発が進められました。そしてがごめ昆布バスパックが誕生しましたが、生産が終了しています。今回の函館訪問を通じて、現在SHIROに納品されているがごめ昆布がすべて食べられる部分であることがわかりました。残念ながら根の部分には不純物が多く付着するため、化粧水や美容液をつくるが難しかったのです。しかし私たちが目指しているのは自然に合わせたものづくり。製品の品質はもちろんですが、いかに資源を無駄なく使うかも同じくらい大切だと考えています。

あらためて、食べられる部分は食用に、私たちは食べるのには向かない部分を活用したものづくりを目指したい。捨てる部分を乾燥させるのは漁師にとって新たな負担になりますから、乾燥させずに生の状態で仕入れられる可能性があるのか、さっそく検討です。また、間引きの際に捨てられる昆布が発生するというお話も伺いました。建築物に間伐材を使うように、間引きした昆布を製品に使えば、SHIROらしいものづくりができるかもしれません。春になったらまた函館を訪れようと思います。その様子は引き続きこちらでお伝えしていきますね。

品質、デザイン、 真っ当さ。 SHIROが目指す 本当の美しさ。

目まぐるしく変わる時代と社会。

SHIROもさまざまな変化を遂げてきましたが、
今、これまでにない大きな進歩の時期を迎えています。
その根底にあるのは、
創業以来ずっと変わらずにあり続ける思想です。
SHIROの原点とその歩みを、
ブランド創設者の今井浩恵と改めて振り返ります。

Text: SHINTARO KUZUHARA

2009 LAUREL

自分が使いたいものをつくりたい

株式会社シロの前身である株式会社ローレルがスタートしたのは、1989年の北海道砂川市。1995年に短大を卒業した今井は、北海道土産になるようなハーブや石けん、ジャム、ドレッシングなどの製造・販売を主なビジネスとする当時のローレルに入社しました。1998年、大手企業からの依頼により本格的に化粧品開発を手掛け、それを皮切りに次々と取引先を開拓。2000年には創業者から会社を引き継ぎ、今井が社長に就任しました。

当時のローレルは大きな負債を抱えていましたが、OEMを請け負い、顧客の要求に応えることで、会社の経営は上向いていきました。しかし、最初こそ楽しさもありましたが、次第に複雑な思いを抱くようになったんです。当時私たちが製造していた化粧品は、自分が使いたいと思える製品ではなかった。ビジネスだからと納得できない製品をつくり続けるくらいなら、会社がなくなったって構わないとさえる思うようになりました。そしてあるとき吹っ切れたんです。自社ブランドで、自分たちが毎日使いたいと思える製品をつくらうと。

こうして2009年に、自社ブランド「LAUREL（ローレル）」を立ち上げました。

2015 shiro

実は身近なところにあった、 最高の素材

今井は、自分の目で見て、触れて、確かめたことしか信じない性格。人々の美しさに貢献できるより良い素材を求めて、世界中を飛び回りました。時には相当に高価な素材を買い付けたことも。とにかく、さまざまな製品を開発してきました。

確かに世界中を探せば良い素材はあるんです。でも、そんな生活が続けるのは無理でした。体力的にも精神的にもきついし、プライベートとのバランスも取れない。そもそも世界のどこかにある素材を使った化粧品は、他のブランドでもつくれてしまう。「自分たちにしかできないこと」を考えるようになりました。

そんなときに、ふと「北海道で採れる美味しい食材は、原材料になるかもしれない」とひらめいた。北海道に生まれ育った今井だからこそたどり着いたアイデアでした。

見つけたのは、北海道函館市近海でしか採れない「がごめ昆布」。糸をひくほどのとろみが特徴です。研究者や漁師に話を聞き「固すぎて食用には向かない根元にこそ、とろみ成分が豊富に含まれている」ことを知りました。良い素材を求めて世界中を旅しましたが、実は最高の素材が北海道にあった。早速、がごめ昆布を使って化粧水を開発。今でも SHIRO を代表する素材であり、私たちの原点とも言えます。

品質には自信がある。とはいえ、昆布を肌につけてもらえるのか、多くの人に支持してもらえるのか不安でした。しかしありがたいことに、製品が口コミによって瞬く間に広まっていきました。

これこそ、私たちがやるべきことだ——。砂川でスタートした私たちがからこそ、できること。遠くのどこかに素材を探しに行くのではなく、近くにある良い素材を見つけ出す。そのためには、良い素材をつくり続ける生産者と出会えなければなりません。私たちSHIROの製品は、自然の力と、自然と向き合う生産者の皆さんがいるからこそ成り立ちます。製品が多くの人に届けば、多くの人の美しさだけでなく、生産者のビジネスにも貢献できるのです。

口コミは更に広がり、莫大な広告予算をかけずとも、多くの方に愛されるブランドへと成長しました。2014年にはOEM事業から完全撤退、2015年には自社ブランド名を「LAUREL」から「shiro」へとリニューアル。shiro cafe や shiro beauty など、新しい業態にも挑戦するようになりました。



2019 SHIRO

もっとたくさんの人に使ってほしいから 世界のトップを目指した

日本中のの人にshiroの製品を届けることができるようになり、次に目指したのは世界です。「もっとたくさんの人に使ってほしい」という純粋な想いからでした。

世界中の人に使ってほしいと思ったんです。shiroはもっとたくさんの人の美しさに貢献できるはずだって。そのためには各国を代表するラグジュアリーブランドと肩を並べるブランドに成長しなければと考えました。世界で活躍するクリエイティブチームと仕事をし、トレンドを追うために世界中を飛び回りました。

2016年にはロンドン1号店、2018年にはニューヨークに店舗をオープン。そして2019年には再びリブランディングしました。人々の美しさの影の主役でいからと控えめに小文字だった「shiro」を、日本を代表するブランドになることの覚悟を示す大文字の「SHIRO」に変更。パッケージも一新しました。世界各国の調香師が、「最も思い出に残っている香り」をテーマにつくった「SHIRO PERFUME」シリーズを発売するなど、製品のバリエーションも広げながら多くの人々に愛されるブランドに成長していきました。

でも、ラグジュアリーブランドを目指せば目指すほど、違和感が心が侵食されていきました。業績は順調に伸びている。企業としてはどんどん拡大するしかありません。もっと店舗を増やし、製品をつくり、人を雇用する。ブレーキが壊れた車に乗っているかのように、ひたすら加速していきました。世界の人に届けたいという想いで始めて、そのために世界のトップブランドを目指しましたが、そんなことは望んでいなかったんです。もしかすると、ただ消費を煽っているだけなのかもしれない……。違和感があるのに止められません。心も身体も限界に近づいていました。

2023 Back to basics

上だけを目指すのはもう終わり 本当の美しさに必要な条件とは

2020年、新型コロナウイルスによるパンデミックにより、世界に急ブレーキがかかりました。世界中に点在している素材の生産地や製品の製造地、販売拠点などによるサプライチェーンの崩壊や、ファッションではフィジカルなショーも中止になるほど、多くのラグジュアリーブランドが窮地に立たされたことは間違いありません。そんな中でもSHIROはほとんど影響を受けませんでした。素材の仕入れから製造まで日本国内で完結しているという強みが最大限に活かされたからです。実際、コロナ禍においても業績が落ちることはありませんでした。

世界中をあちこち忙しく飛び回っていたのに、突然家に閉じこもる生活を強いられました。立ち止まる時間が手に入ったことで、違和感に正直に向き合うことができました。いろいろなことを考えましたが、最終的に行き着いたのは、私たちのアイデンティティでした。

SHIROのアイデンティティは、自分が毎日使いたいと思える高品質と安全性。誰かに使ってほしいと思える真っ当さです。そのために常に生産者とコミュニケーションを取り続けてきました。

SHIROを支えているのは、信頼を寄せている生産者の方々です。世界中、日本中を探し回って『絶対にこの人だ』と思える人から素材を仕入れています。収穫が多ければたくさん製品をつくるし、少なければ製造量を絞る。収量が少ないうちからといって他から仕入れることはありません。なぜなら、信頼している生産者から仕入れたいからです。SHIROの製品には生産数が少ないものがありますが、決して話題づくりのためではありません。私たちの判断基準は、生産者。自然以上のものづくりはしないんです。

創業から変わらないSHIROの思想に加え、今では世界のラグジュアリーブランドと肩を並べるデザインやプロダクトを兼ね備えていると自負しています。地に足を着けつつ、世界でも聞える。「そんなアイデンティティを持つブランド、世界のどこを探してもSHIRO以外にはない」と今井は胸を張ります。



森を歩き、何かを見つけるたびに香りを確認する今井。



ラグジュアリーな業界に精通していくことで「ここは、コスメティックやファッションに限られた、想像していたよりも狭い世界だ」と感じるようになりました。より多くの人にSHIROを伝えるために、ラグジュアリーでもなく、ローカルでもなく、今の社会に存在しない「何か」を目指していく。これがSHIROの現在地なんです。

私は2021年に社長を退任し、会長に就任しました。会社の舵取りはまかせて、もっと海に、畑に、森に足を運びます。自然が生み出すたくさんの素材と出会い、生産者と出会い、より良い製品をつくっていきます。

SHIROは今、まちづくりや森づくりなど、新しい領域に挑戦しています。具体的には、創業の地・砂川市の活性化のため、ものづくりや子どもたちの支援、観光などをテーマにした施設や環境を市民とともにつくる「みんなのすなわプロジェクト」や、森を中心に置く設計思想による一棟貸し宿「MAISON SHIRO」などです。

もっとたくさんの人にSHIROのことを伝えたいという想いは変わりません。だからこそ、これまでにやってこなかったことに挑戦し、新しい人に出会い、SHIROを知ってほしいのです。

SHIROの本質的な思想を世界中に伝えようとしたら、100年、200年という単位で考える必要があります。自分が生きている間には実現しないような単位です。しかし『そもそも人の暮らしはどうなるのか』に不安を覚えます。漁業、農業、林業は続いているのか……。自然に根付いたものづくりができるのか、今のままでは、悪いイメージしか浮かびません。そんな未来を変えるためにも、SHIROの製品とそこに込めた思想をもっともっと広めていかなきゃいけないんですよ。

本当の美しさとはなんでしょうか。見た目だけではないことに、誰もが気づいているはず。例えばそれは、社会への態度からにじみ出るものではないでしょうか。同様に、目に見えるデザインだけで世界の人に愛されるブランドがつくれる時代も終わるでしょう。品質も良く、デザインもよく、真っ当さも兼ね備えたブランドこそが愛されると私たちは信じています。何かを目指す過程で、何かを排除するような方法は選びたくない。それが、私たちSHIROなのです。



SHIRO CAFE

SHIROのスキンケアやメイクアップ製品でたくさんの方々に愛されている、がごめ昆布や酒かす、ルバーブなど北海道を中心とした自然素材をふんだんに使った、フードやドリンクメニューが味わえるカフェです。素材への強い想いを持つ生産者を自分たちの足で直接訪ね、安心安全であることはもちろん、本当においしいと感じた素材だけを厳選。素材の良さが最大限に引き出された、季節を感じられる幅広いメニューをお楽しみいただけます。

〈併設店舗〉SHIRO 砂川本店、自由が丘店、渋谷ヒカリエShinQs店 ※渋谷ヒカリエShinQs店はドリンクメニューのみの提供



SHIRO LIFE

全国を巡りたくさんの生産者と出会う素材探しの旅。農家の方が家族のために無農薬にこだわり育てた野菜や、道の駅や地元のお店でしか買えない名産品との出会いも絶えません。愛情とこだわりを持ってつくられた良いものを知ってほしい。そんな想いからスタートしたのがSHIRO LIFEです。人気の嶋崎農場さんの「ルバーブジャム」は、SHIRO CAFEのパンケーキメニューにも使用。原料である真っ赤なルバーブは「ルバーブハマナス化粧水」の素材にもなっています。

〈取扱店舗〉SHIRO オンラインストア、砂川本店、札幌ステラプレイス店、自由が丘店、表参道本店



SHIRO BEAUTY

SHIROが提案する美しさを全身で体感できるトータルビューティーサロン。ヘアサロンとボディ&フェイシャルスパを併設しています。がごめ昆布や酒かす、タマヌなど、SHIROのスキンケアやメイクアップの原料として使われている自然素材を使用し、一人ひとりのお客様に寄り添うパーソナルなメニューをご用意しています。美容師・大江晃代さんとの出会いをきっかけに生まれた、座っているだけで素敵になれるブランド唯一のサロンです。

SHIRO BEAUTY 表参道本店
東京都渋谷区神宮前 5-2-7 B1（最終受付 18:00）

Shop List

北海道 SHIRO 砂川本店 SHIRO 札幌ステラプレイス店	北海道砂川市西 1 条南 5-1-4 北海道札幌市中央区北 5 条西 2-5 JR タワー 札幌ステラプレイス センター B1	中部 SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店 SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店	愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F 愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品 SHIRO
関東 SHIRO 表参道本店 SHIRO BEAUTY 表参道本店 SHIRO 自由が丘店 SHIRO NEWoMan 新宿店 SHIRO ルミネエスト新宿店 SHIRO 伊勢丹新宿店 SHIRO 丸ビル店 SHIRO ルミネ有楽町店 ※1 SHIRO 銀座三越店 SHIRO +Q (プラスク) ビューティー 渋谷スクランブルスクエア店 SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs店 SHIRO ルミネ池袋店 SHIRO 玉川高島屋 S・C 店 SHIRO ルミネ北千住店 SHIRO ルミネ横浜店 SHIRO ルミネ大宮店 SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY	東京都渋谷区神宮前 5-2-7 2F 東京都渋谷区神宮前 5-2-7 B1F 東京都目黒区自由が丘 2-9-14 アソルティ 1F・B1F 東京都新宿区新宿 4-1-6 NEWoMan 新宿 1F 東京都新宿区新宿 3-38-1 ルミネエスト 新宿 B1 東京都新宿区新宿 3-14-1 伊勢丹新宿店本館 1 階→化粧品 東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸の内ビルディング B1F 東京都千代田区有楽町 2-5-1 ルミネ有楽町 ルミネ 2・1F 東京都中央区銀座 4-6-16 銀座三越 地下 1 階 ギンザコスメワールド 東京都渋谷区渋谷 2-24-12 渋谷スクランブルスクエア ジョップ&レストラン 6 階 SHIRO +Q (プラスク) ビューティー店 東京都渋谷区渋谷 2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F 東京都豊島区西池袋 1-11-1 ルミネ池袋 B1 東京都世田谷区玉川 3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館 1F 東京都足立区千住旭町 42-2 ルミネ北千住 3F 神奈川県横浜市区西高島 2-16-1 ルミネ横浜 1F 埼玉県さいたま市大宮区錦町 630 番地 ルミネ大宮店 ルミネ 2 3F 東京都大田区羽田空港 3-4-2 第 2 ターミナル 3 階 国際線出国エリア内	近畿 SHIRO ルクア イーレ店 SHIRO なんばパークス店 ※2 SHIRO 大丸京都店 SHIRO 大丸心斎橋店 SHIRO 阪急うめだ店 SHIRO 大阪タカシマヤ店 ※3	大阪府大阪市北区梅田 3-1-3 ルクア イーレ 2F 大阪府大阪市浪速区難波中 2-10-70 なんばパークス 3F 京都府京都市下京区 四条通高倉西入立売西町 79 大丸京都店 1F 大阪府大阪市中央区心斎橋筋 1-7-1 大丸心斎橋店本館 1F 大阪府大阪市北区角田町 8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY SHIRO 大阪府大阪市中央区難波 5-1-5 高島屋 大阪店 1 階化粧品売場 (SHIRO)
九州 SHIRO 岩田屋店 SHIRO 博多阪急店			福岡県福岡市中央区天神 2-5-35 岩田屋本店 本館 1 階→化粧品 SHIRO 福岡県福岡市博多区博多駅中央街 1-1 博多阪急 1F 化粧品 SHIRO
London SHIRO St. Christopher's Place SHIRO Monmouth Street			Grd Flr, 15 St Christopher's Place, London, W1U 1NJ Grd Flr, 63 Monmouth Street, Seven Dials, London, WC2H 9DG
※1 2023年1月22日クローズ ※2 2023年1月15日クローズ ※3 2023年1月24日オープン			

SHIRO PAPER

ISSUE 0
創刊準備号

発行：株式会社シロ
お問い合わせ
TEL 0120-275-606
MAIL: info@shiro-shiro.jp

編集長：今井浩恵
Editor in chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター：佐々木信 (3KG)
Creative Director: Shin Sasaki
エディター：葛原信太郎
Editor: Shintaro Kuzuhara

表紙写真 A (がごめ昆布)：
古瀬桂 (GAZE fotografica)
Cover Photograph: Kei Furuse

表紙写真 B (森)：
曽根健吾 (monocyte)
Cover Photograph: Kengo Sone

発行人：福永敬弘
Publisher: Takahiro Fukunaga

プロデューサー：伊藤亜由美 (CREATIVE
OFFICE CUE)
Producer: Ayumi Ito

製品開発：中川美由紀
Product Developer: Miyuki Nakagawa
進行管理：川手梨乃
Project Manager: Rino Kawate

PR・校正：小林穂乃香
Public Relations: Honoka Kobayashi
PR・撮影：笹木舞子
Public Relations: Maiko Sasaki

Thanks to:
足立成亮 / 岩田和晴 / 小倉寛之 / 上井達矢 /
北崎千鶴 / 陣内雄 / 鈴木愛 / 高尾僚将 /
高間俊輔 / 高山泉 / 武隈洋輔 / 武部豊樹 /
野中瑠馬 / 野中穂 / 函館市漁業協働組合 /
望月亜希子 / 安井肇 / 吉田凱 /
上川町の皆さん / 札幌南高等学校林の皆さん /
長沼町の皆さん

Copyright © SHIRO Co.Ltd.
All Rights Reserved.
本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、
ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp
@shiro_japan

